

フィッシャーの情報量と正規分布

統教研 清水良一

1. $f(x)$ は連続な導関数をもつ密度関数で、 $|x| \rightarrow \infty$ のとき、 $xf(x) \rightarrow 0$ を満たすとする。また平均 0、分散 σ^2 として、 location family $\Lambda = \{f(x-\theta)\}$ を考へる。 Λ に対するフィッシャーの情報量 $I(\Lambda)$ は、

$$I = I(\Lambda) = E \left(\frac{\partial \log f(x-\theta)}{\partial \theta} \right)^2 \\ = \int_{-\infty}^{\infty} \frac{f''(x)}{f(x)} dx$$

である。 θ に無関係である。

$$J = \int_{-\infty}^{\infty} \frac{(\sigma^2 f'(x) + xf(x))^2}{\sigma^2 f(x)} dx$$

とおくと、よりは

$$J = \sigma^2 I(\Lambda) - 1 \geq 0$$

が得られる。等号が立つのは、すりから、 $I(\Lambda)$ が最小になるのは、明らかに $f(x)$ が $N(0, \sigma^2)$ のときである

この性質、すなはち、フィッシュヤー情報量が最小になる
ヒューリック分布、特徴的性質は、次の意味で安定である：
フィッシュヤー情報量が小さければ、 f の分布は $N(0, \sigma^2)$ に
近い。

定理 f は上に述べた条件をみたすとする。次、不等式
が成り立つ。

$$\sup_x |f(x) - \phi(x)| \leq 1.7 \sqrt{J},$$

$$\sup_x |F(x) - \Phi(x)| \leq \int_{-\infty}^{\infty} |f(x) - \phi(x)| dx \leq 3.2 \sqrt{J}.$$

$F(x)$ は f の分布関数、 $\phi(x), \Phi(x)$ はそれぞれ $N(0, 1)$
の密度関数、分布関数である。

2. f は初期、条件をみたすとする。 F からの大きさ
 n の標本の normalized sum の密度関数を $f_n(x)$ とする。
 $f_n(x) = \sqrt{n} f^{**n}(\sqrt{n}x)$. location family
 $A_n = \{f_n(x-\theta)\}$ \rightarrow フィッシュヤー情報量 I_n は。

$$I_n = n \int_{-\infty}^{\infty} \frac{(f^{**n}'(x))^2}{f^{**n}(x)} dx$$

で与えられ。

$$n I_n \leq m I_m + (n-m) I_{n-m}, \quad n > m.$$

$$\sigma^{-2} \leq I_{n,m} \leq I_n.$$

を満足す. $\epsilon < \infty$.

$$a_p = \lim_{n \rightarrow \infty} I_{p,n} \geq \sigma^{-2}, \quad p=1, 2, \dots$$

が存在す.

3. Y_1, \dots, Y_n が平均 0, 分散 $\sigma^2 (=1)$ の分布 G から
の標本とする. Z_1, \dots, Z_n は Y に独立, $N(0, 1)$
からの標本とする,

$$X_j = (Y_j + Z_j)/\sqrt{2}, \quad j=1, \dots, n$$

とおき. Y_1, \dots, Y_n の normalized sum の分布を G_n
とすと, X_1, \dots, X_n の normalized sum の密度,

$$f_n(x) = \frac{1}{\sqrt{\pi}} \int_{-\infty}^{\infty} e^{-(\sqrt{x}-y)^2/2} dG_n(y)$$

ともつ.

$$f_n''(x) / f_n(x) \quad \text{が可積分関数} \quad g(x) = \min(4, 4/x^2)$$

より大きくなりないこと, および location family である
ことを示す. 十分統計量が, 標本平均から, その family は正規である
ことを説いて, $a_p = 1, \quad p=2, 3, \dots$ が得られる.

また, このから.

$$\lim I_n = 1,$$

すなわち, f_n が, あるいはその分布が $N(0, 1)$ に近づくことである。これから $G_n \rightarrow \Phi$ すなわち、最も單純な場合の中心極限定理が導かれる。